

## 乳幼児期における絵本の役割

乳幼児期に絵本の読み聞かせをしてもらうという経験は、子どもの自己形成や共感性、協調性を育てるなど情緒や対人関係の発達に関係し、児童期以降の読書推進のためにも大きな役割を担っているといえます。また、読み聞かせには読み手である大人にも影響を与える、相互作用をもったコミュニケーションであることも明らかとなっています。

### 【赤ちゃん絵本期】

赤ちゃんにとって絵本は、会話やふれあい遊びの延長線にあるもの。そのため赤ちゃん絵本は、なめたり・かじったりしても大丈夫なように厚紙で破れにくいもの、角が丸くなっているものが多いです。めくる・さわる楽しさをたっぷりと味わわせてあげましょう。



### 【もの絵本期】

歩けるようになり、言葉がわかり始めると興味が広がり、経験を重ねます。それに伴い、耳と目からの情報でお話が理解できるようになります。身近な食べ物や動物、オノマトペ（擬音語、擬態語）が使われている絵本がおすすめです。



### 【子守話期】

生活のリズムができ、自分の身の回りのことができるようになったり、絵本の言葉を覚えてすぐに使ったりできるようになります。衣服の着脱やお片付けなど生活に関するもの、さらには知識や科学絵本などにも挑戦してみましょう。



### 【昔話期】

話したり体を動かすことが発達して感情が豊かになり始めると、自分の知らない世界のお話や昔話など長いお話を聞き通す力もついてきます。1冊を聞き通せたという経験は、子どもにとって達成感や満足感を与えます。様々な種類の絵本に出会わせたい時期です。



## 読み聞かせSOS

読み聞かせは子どもにとって最初の読書活動であり、親と子がじっくりと触れ合い、楽しい時間を共有するものです。ここでは、読み聞かせについてよく聞かれる質問をご紹介します。

赤ちゃんには何か月くらいからどんな絵本を読んだらいいの？



絵本に興味がないみたい。

赤ちゃんの興味に合った絵本を選んでみましょう。身近なものが出てくる絵本や楽しいしかけがある絵本など、絵本にもいろいろな種類があります。まずは読み手（大人）が楽しんで絵本を読んでいることが大切です。



読み聞かせを始めるのに最適な月齢というのはありません。赤ちゃん向けには、挨拶や食べ物などをテーマにした、色のはっきりとした絵本がおすすめです。厚紙でできている絵本や布絵本だと破れたり怪我をする心配はないです。

【参考図書】  
『0～5歳子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド』小学館 児玉ひろ美 2016年  
『赤ちゃんからの絵本ガイド』主婦の友社 2007年  
『子育てに絵本の読み聞かせを』銀河社 2004年

図書館HP



五所川原市立図書館では、本を10冊まで借りることができます。子どもが何に興味があるのか知りたい時には、気になった本をとりあえず借りてみるというのも一つの方法です。お気に入りの絵本が見つかったら本屋さんで買ってみたいはいかがでしょう！絵本をすぐに買うのには気が引ける…という時には、ぜひ「図書館」をご活用ください♪

何度も同じ絵本を読んでもいいですよ。



繰り返し読みたがるのは、幼児期の特徴です。繰り返しているうちにストーリーや言葉を覚えたり、成長するにつれてお気に入りの本も増えていきます。もし時間がない時は、お気に入りのところだけ読んだり、「またいっぱい読もうね」と期待を持たせて終わるのもいいでしょう。

